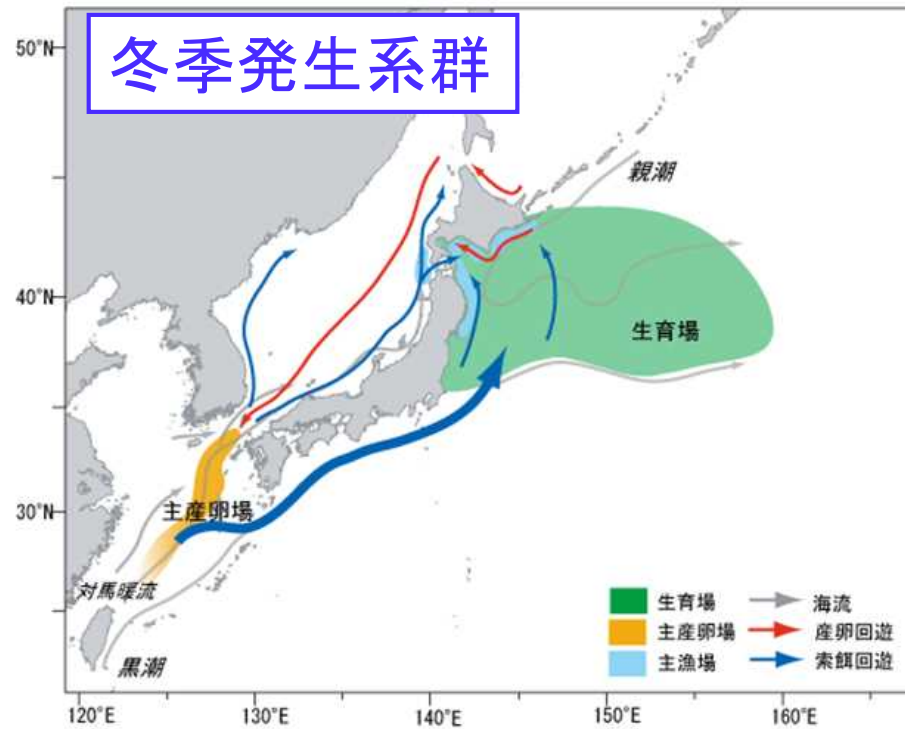


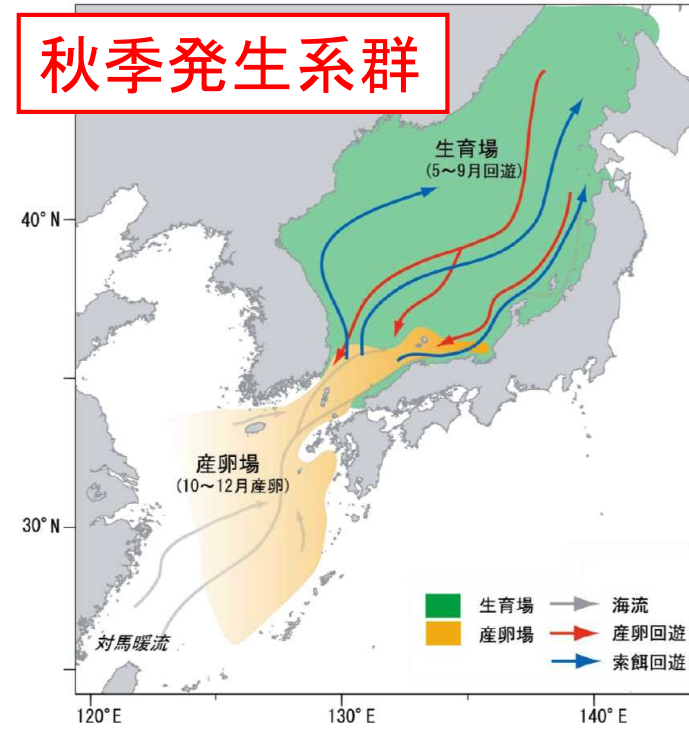


スルメイカ冬季発生系群・秋季発生系群
平成30年度資源評価結果

スルメイカ2系群の生物学的特性



- ・東シナ海で12月～3月に産卵
- ・太平洋を北上、日本海を南下
- ・主に太平洋で8月～12月、日本海で11～2月に漁獲

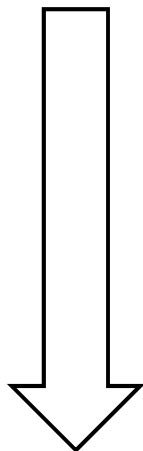


- ・日本海～東シナ海北部で10月～12月に産卵
- ・日本海を北上、南下
- ・主に日本海で5～10月に漁獲

- 寿命：約1年
- 成熟開始年齢：雄は約6～7カ月、雌は約7～8カ月以降
- 食性：甲殻類、小型魚類、いか類
- 捕食者：主に大型魚類、海産ほ乳類

資源評価の流れ

資源調査



冬季

- 7～10月中旬の小型いか釣り漁船の漁業情報
- 8～9月の調査船調査結果

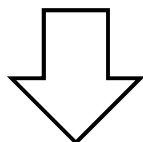
これらの情報による資源量指標値から資源量を推定

秋季

- 6～7月の漁場一斉調査(いか釣り調査)

上記に基づく資源量指標値から各年の資源量を推定

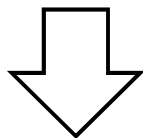
2018漁期年資源量推定



再生産関係

※資源量と親魚量
の関係から推定

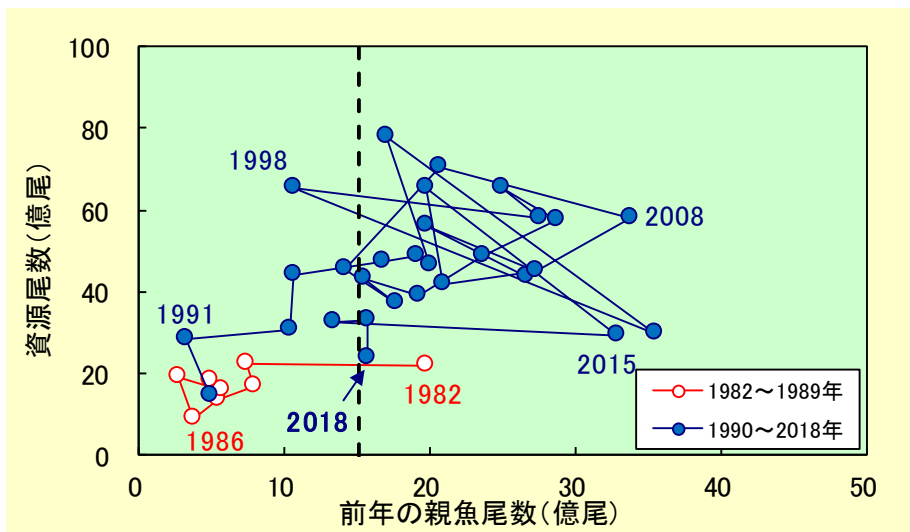
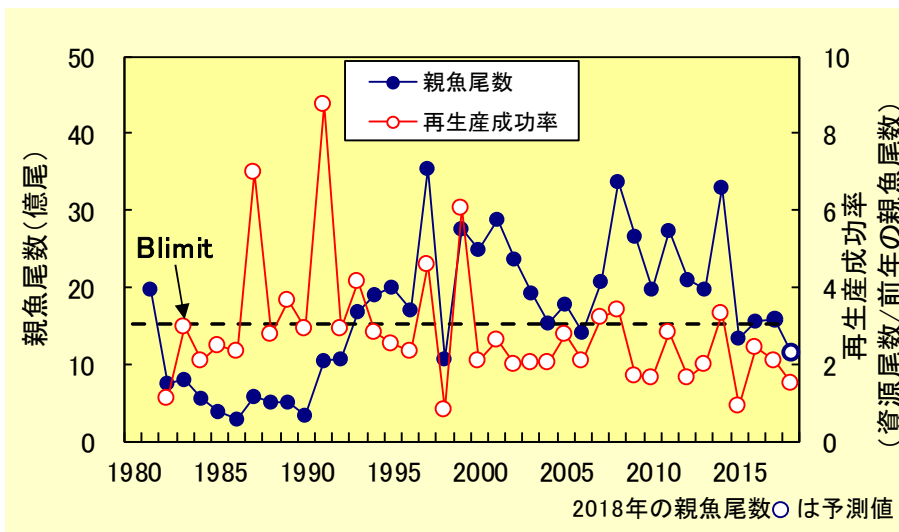
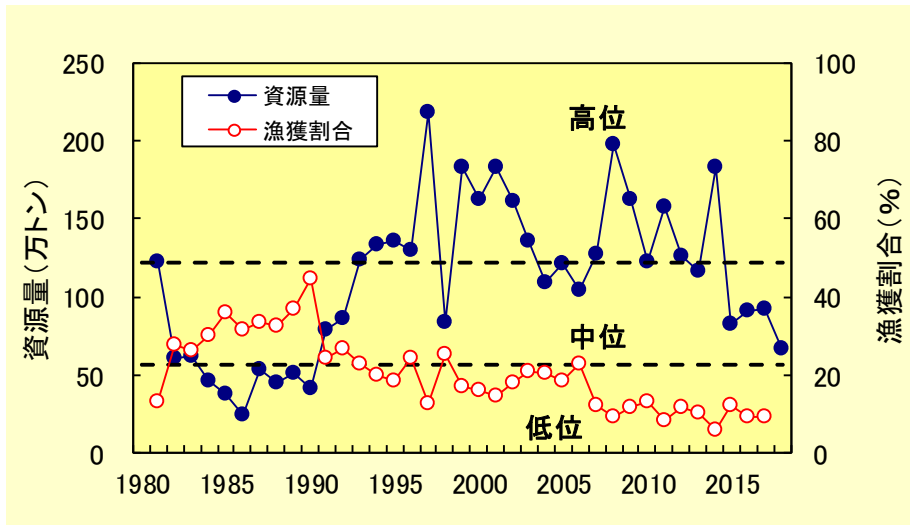
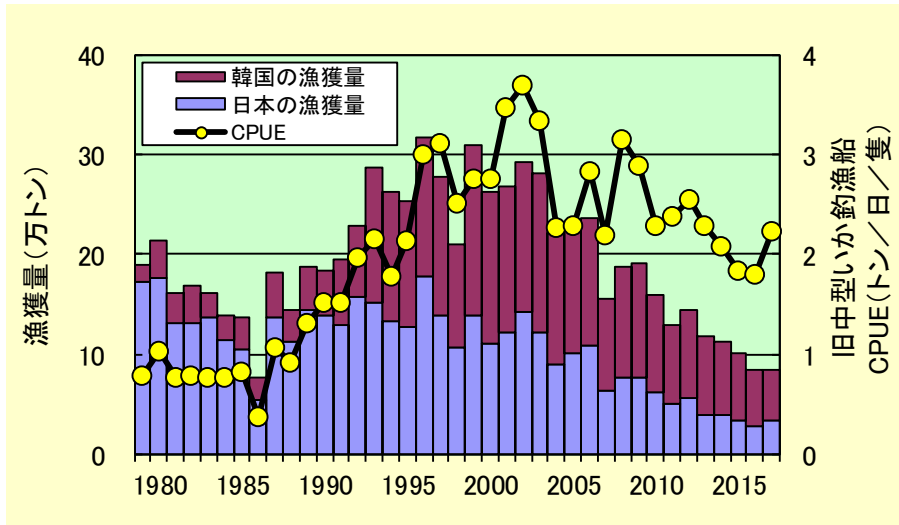
2019漁期年資源量予測



各漁獲シナリオの検討

2019年漁期ABCの算定

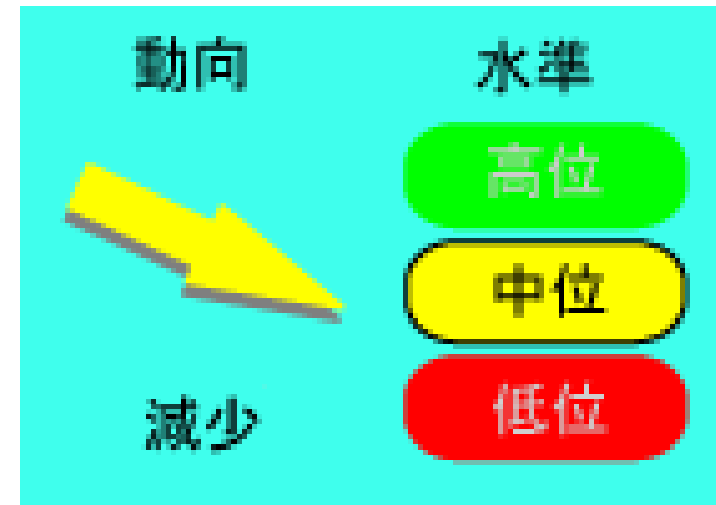
秋季発生系群



2018年 資源量:23.9億尾・67.0万吨
 親魚量:11.3億尾・31.7万吨(2018年漁期終了時)
 (Blimit=15.1億尾 以下)

資源評価のまとめ

- 資源状況
 - 2018年：資源量67.0万トン、親魚量31.7万トン
- 資源動向・資源水準
 - 水準は**中位**（ただし**親魚量は B_{limit} を下回る**）
 - 動向は**減少**
- 親魚量を **B_{limit} 以上の水準に回復させる**ことが目標
- 近年、秋季の高水温化により再生産環境が悪化していると考えられる。
- 中国・北朝鮮の漁獲量、努力量等が不明であり、本資源の評価の不確実性が増大。



2019年ABC表

資源量(2019)=664千トンを仮定、親魚量(2018)=317千トン、Blimit=424千トン

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/Limit	2019年漁期 ABC (千トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)	2023年漁期後の 親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2023年漁期後に 2018年漁期後の 親魚量を維持	2023年漁期後に Blimitを維持
親魚量の増大 (5年でBlimitへ 回復) (Frec5yr)	Target	31	5	0.07(-56%)	853 (287~1,519)	88	79
	Limit	38	6	0.08(-45%)	813 (276~1,486)	86	77
親魚量の増大 (B/Blimit× Fmed) (Frec)	Target	39	6	0.08(-45%)	808 (274~1,474)	86	76
	Limit	49	7	0.10(-30%)	758 (257~1,439)	84	72
		2019年漁期 算定漁獲量 (千トン)					
親魚量の維持 (Fmed)	Target	52	8	0.11(-25%)	741 (251~1,421)	83	70
	Limit	64	10	0.14(-7%)	679 (229~1,306)	81	67
現状の漁獲圧 の維持 (Fcurrent)	Target	55	8	0.12(-20%)	723 (246~1,395)	83	69
	Limit	68	10	0.15(±0%)	659 (223~1,281)	79	66